Members

指揮 佐渡　裕
Conductor：Yutaka Sado

ソプラノ 端山　梨奈
Soprano：Rina Hayama

バリトン 福嶋　勲
Baritone：Isao Fukushima

管弦楽：神戸市室内管弦楽団
Orchestra：Kobe City Chamber Orchestra

第1ヴァイオリン
◆高木　和弘　幸田　聡子　谷口　朋子
森岡　聡　萩原　合歓　前川　友紀

第2ヴァイオリン
西尾　恵子　黒江　郁子　中山　裕子
井上　隆平　二橋　洋子

ヴィオラ
亀井　宏子　横井　和美　北村　聡至
中島　悦子　菅　育代

チェロ
伝田　正則　田中　次郎　福富　祥子
山本　彩子　日野　俊介

コントラバス
長谷川順子　田中　寿代
池内　修二

ハープ
平野　花子

オルガン
中山幾美子

ピアノ／チェレスタ
河内　仁志（神戸市混声合唱団ピアニスト）

フルート／ピッコロ
市川えり子　初田　章子

オーボエ
東口佐和子　岡山　理絵

クラリネット
山本　正治　島谷万寿実

ファゴット／コントラ・ファゴット
國府利支恵　佐々木威裕

ホルン
根本めぐみ　二宮　聡美
芦田　萌　和久田侑希

トランペット
横田　健徳　滝村　洋子

トロンボーン
宮下　悠　小林　千佳　寺谷　糧

バーカッション
奥村　隆雄

◆…客演コンサートマスター

《音楽主幹》 松原千代繁

合唱：神戸市混声合唱団
Chorus：Kobe City Philharmonic Chorus

ソプラノ
岩本実奈子　奥田　愛　金岡　伶奈　杉浦　希未　田中めぐみ　★内藤　里美
西尾　薫　●端山　梨奈　原田　葉奈　丸山　晃子　三河　紀子

アルト
高原いつか　田中　由衣　野上　貴子　長谷川明莉
林　真衣　肥田真莉子　福井由美子　●村井　優美

テノール
井澤　章典　佐々木涼輔　鹿岡　晃紀　総毛　創
谷口　文敏　馬場　清孝　●眞木　喜規　三木　秀信

バス
池田　真己　鳴本　晃　武久　竜也　谷本　尚隆
中野　嘉章　●西尾　岳史　★福嶋　勲　宮尾　和真

≪音楽監督≫ 松原　千振　≪副指揮者≫ 太田　務　青木　耕平

★…コンサートマスター、コンサートミストレス　●…パートリーダー

Profile

指揮者 佐渡　裕　Yutaka SADO

京都市立芸術大学卒業。故レナード・バーンスタイン、小澤征爾らに師事。1989年ブザンソン指揮者コンクール優勝。1995年第1回レナード・バーンスタイン・エルサレム国際指揮者コンクール優勝。これまでパリ管弦楽団、ベルリン・ドイツ交響楽団、ケルンWDR交響楽団、バイエルン国立歌劇場管弦楽団、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団等、欧州の一流オーケストラに多数客演を重ねている。2015年9月より、オーストリアを代表し110年の歴史を持つトーンキュンストラー管弦楽団音楽監督に就任し、欧州の拠点をウィーンに置いて活動している。エクサンプロヴァンス音楽祭「椿姫」、オランジュ音楽祭「蝶々夫人」、トリノ王立歌劇場「ピーター・グライムズ」、「カルメン」、「フィガロの結婚」など海外のオペラ公演の実績も多数。国内では兵庫県立芸術文化センター芸術監督、シエナ・ウインド・オーケストラの首席指揮者を務める。CDリリースは多数あり、最新盤はトーンキュンストラー管弦楽団を指揮した14枚目のCD「佐渡裕×辻井伸行　ラヴェル作品集」を2020年5月にリリース。著書に「僕はいかにして指揮者になったのか」（新潮文庫）、「棒を振る人生〜指揮者は時間を彫刻する〜」（PHP文庫／新書）など。
オフィシャルファンサイト：http://yutaka-sado.meetsfan.jp

ソプラノ 端山　梨奈　Rina HAYAMA

大阪音楽大学卒業、京都市立芸術大学大学院を首席で修了し大学院賞を受賞。2008年「フィガロの結婚」スザンナ役でオペラデビュー。その後「魔笛」夜の女王、「ボエーム」ムゼッタ、「子どもと魔法」火、姫、うぐいす、「ばらの騎士」ゾフィーなど多数のオペラに出演。京都市交響楽団、日本センチュリー交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団と共演。NHK-FM「名曲リサイタル」、NHK BSプレミアム「クラシック倶楽部」などに出演。世界オペラ歌唱コンクール「新しい声2007」アジア予選ファイナリスト。神戸市混声合唱団団員。日本センチュリー合唱団ヴォイストレーナー。

バリトン 福嶋　勲　Isao FUKUSHIMA

オペラ、ミュージカル、シャンソン、歌謡曲、宗教曲や合唱曲のソロなどジャンルを問わず多くの舞台に出演を重ね、著名なオーケストラ、指揮者、音楽家との共演も多い。特に邦人作品の分野で高い評価を得ており、新実徳英、水野修孝、増木佐共子氏らの新作歌曲を初演、また近年では邦楽器を伴った作品の初演、再演を多く手掛け、箏／深海さとみ、福永千恵子、池上真吾、尺八／田辺訟山、笛／藤舎推峰、三弦／野澤徹也、琵琶／岩佐鶴丈各氏ほか多くの邦楽家と共演。神戸新人音楽賞優秀賞、摂津音楽祭奨励賞、全日本学生音楽コンクール第２位、和歌山音楽コンクール第１位（２位３位なし）、《波の会》日本歌曲コンクール第１位および四家文子賞、奏楽堂日本歌曲コンクール第１位および中田喜直賞、木下記念賞、藤井清水音楽コンクール第１位ほか多数受賞。2015年度和歌山県由良町文化功労賞受賞。堺シティーオペラアカデミー講師、香里ヌヴェール学院小学校講師、ミュージカルカンパニーワンダーラー講師、神戸市混声合唱団コンサートマスター。

神戸市室内管弦楽団
Kobe City Chamber Orchestra

1981年、神戸市により設立。実力派の弦楽器奏者たちによって組織され、弦楽合奏を主体としながらも、管楽器群を加えた室内管弦楽団としての活動も活発で、バロックから近現代までの幅広い演奏レパートリーのほか、埋もれた興味深い作品にも意欲的に取り組みながら、質の高いアンサンブル活動を展開している。2000年、故巨匠ゲルハルト・ボッセを音楽監督に迎えてから、演奏能力並びに芸術的水準は飛躍的な発展を遂げ、日本を代表する室内合奏団へと成長した。毎年のシーズン・プログラムは充実した内容の魅力あふれる選曲で各方面から注目を集め、説得力ある演奏は高い評価を受けている。国内外の第一線で活躍するソリストたちとの共演も多く、2011年9月にはドイツのヴェストファーレンクラシックスからの招聘を受けてドイツ公演を行い、大成功を収めた。2013年度からは、日本のアンサンブル界を牽引する故岡山潔が音楽監督に就任。2018年4月、楽団名を「神戸市室内管弦楽団」とし、新たな活動を展開している。

神戸市混声合唱団
Kobe City Philharmonic Chorus

1989年に神戸市により設立された日本を代表するプロフェッショナルの合唱団。神戸を拠点に活動。童謡・唱歌、日本歌曲、外国歌曲、オペラ、シャンソンまで豊富なレパートリーをもち、市民の身近な合唱団として親しまれ、『音楽のまち神戸』推進に大きな役割を果たしている。2005年には、ウラディーミル・アシュケナージ指揮、NHK交響楽団と「レクイエム」（阪神・淡路大震災10年）を共演。2010年、合唱の国ラトヴィア（リガ市）で世界的に有名な室内合唱団「アヴェ・ソル」とジョイントコンサートを行い、姉妹合唱団協定を締結。2013年7月、リガ市からの招聘により、ユネスコ無形文化遺産であるラトヴィア「歌と踊りの祭典」に出演した。また、2011年に初のCD、特別演奏会「宇野功芳 叙情の世界」を、2012年には、第2弾CD「宇野功芳 叙情の世界2」をリリースし、レコード芸術特選盤などに選出される。2017年10月、松原千振が音楽監督に就任。澄みきった密度の高い合唱は、美しい神戸ハーモニーとして高い評価を得ている。

神戸市室内管弦楽団 Kobe City Chamber Orchestra
神戸市混声合唱団 Kobe City Philharmonic Chorus

阪神・淡路大震災25年

特別合同演奏会

2020年12月19日(土) 14:00開演

神戸文化ホール 大ホール

主催：(公財)神戸市民文化振興財団

指揮　佐渡　裕

Program

G. フォーレ

レクイエム Op.48

Ⅰ	Introït et Kyrie	入祭唱とあわれみの賛歌
Ⅱ	Offertoire	奉納唱
Ⅲ	Sanctus	聖なるかな
Ⅳ	Pie Jesu	慈悲深きイエス様
Ⅴ	Agnus Dei	神の小羊
Ⅵ	Libera me	私を解き放ちください
Ⅶ	In paradisum	楽園へと

ソプラノ　端山 梨奈
バリトン　福嶋 勲

休　憩

J. イベール

室内管弦楽の為の嬉遊曲

無伴奏合唱による

クリスマスキャロル

The First Nowell　牧人ひつじを
Psallite (Singt und klingt)　うたえ そして奏でよ
Angels We Have Heard on High　荒野の果てに

G. F. ヘンデル

メサイア HWV56 より

And the glory of the Lord　主の栄光がこのようにして
For unto us a child is born　ひとりのみどりごがわたしたちのために生まれた
Hallelujah　ハレルヤ

Program Notes

太田　務（神戸市混声合唱団 副指揮者）

ガブリエル・フォーレ（1845－1924）

レクイエム　作品番号48

フォーレのレクイエム（死者のためのミサ曲）の人々に愛される理由。それはこの楽曲全体を通して、その根底に流れるフォーレの死に対する哲学と、彼の人となりから生み出された楽音が、優しく人々の心に触れ、温かく響くからでしょう。彼は死を辛くて苦しい体験と捉えず、労苦からの喜ばしい解放と考え、死を超越した幸せへの熱望を心に持って作曲に向いました。その結果、主に最期の審判を模写したレクイエム独特の固有文である続唱（セクエンツィア）が大幅に削除され、さらに彼独自の言葉の選択が施され、これまでのレクイエムとは異なった作品が生まれて来たのです。

第１楽章　Introït et Kyrie　入祭唱とあわれみの賛歌
信仰の深い穏やかさ、高貴さと充実を表すニ短調でIntroïtは始められ、その荘厳なホモフォニーはテノールのグレゴリオ聖歌ように優美に奏でられる旋律に受け渡されます。「Te decet hymnus（あなたに賛美はふさわしい）」とソプラノが変ロ長調でたおやかな旋律で祈りを捧げます。Kyrieでニ短調に戻りますが、この楽章はフリギア旋法で締めくくられます。

第２楽章　Offertoire　奉納唱
バリトン独唱を中心に置く、３つの部分に分かれた楽章です。ロ短調のカノンのような前奏を合唱が受け継ぎ、まるで暗闇を揺り所なくさまよう魂のように無伴奏で歌われます。そこに「生贄と賛美」を捧げるニ長調の朗らかなバリトン独唱が執り成しを行うのです。再び合唱が入って来るとき、そこにはもう恐れも不安もなく、悲しみもありません。贖いを受けた４つの魂が、融合し昇天するような喜びと安らぎさえ感じさせる優しい楽音で終わります。

第３楽章　Sanctus　聖なるかな
ハープとヴィオラの分散和音が天上の音楽を感じさせます。天使セラフィムによって「聖なるかな」と歌われる歌に対して、イエス・キリストのエルサレム入城における、民衆による歓喜の叫びである「天のいと高きにオザンナ」という歓びの声が対照的に扱われています。この楽章では唯一ヴァイオリンが独奏で「Te decet hymnus（あなたに賛美はふさわしい）」の旋律を奏でセラフィムに寄り添います。

第４楽章　Pie Jesu　慈悲深きイエス様
全７楽章からなるこのレクイエムの中心に据えられたこのソプラノ独唱は、簡潔で優しさのある、無垢で平静な気持ちの響きを持った、感動的な祈りです。フォーレの作曲の師であったカミーユ・サン＝サーンスは、「モーツァルトのAve verum corpusが唯一のAve verum corpusであるように、君のPie Jesuは唯一のPie Jesuです。」とこの曲を高く評価しました。

第５楽章　Agnus Dei　神の小羊
導入部のオーケストラは、ヴィオラの歌うように滑らか、かつ表情豊かに奏でられる旋律と共に、「神の小羊」への信頼感の満ち溢れる響きを帯びています。テノールの甘美な旋律がアンサンブルを優しくリードします。この楽章には聖体拝領唱（Communio）が挿入されて、ホモフォニックな讃美歌の様に歌われます。聖体拝領唱からはレクイエム冒頭の歌詞に戻るので、音楽もレクイエムの導入の部分が、ほぼそのまま演奏されます。

第６楽章　Libera me　私を解き放ちください
バリトン独唱で歌い始められるこの曲では、「この日こそ怒りの日、苦悩と悲しみの日」と、最期の審判その日についての言及があります。それは、人はやはり罪深いものであり、必ず通らなければならぬ「その時」から目を背けず、赦しを請う事が必要であるという事なのでしょう。

第７楽章　In paradisum　楽園へと
明るく響くニ長調の楽章の、労りと安らぎに満ちた楽章です。冒頭からソプラノがグレゴリオ聖歌調の爽やかな旋律を奏でます。旋律的には起伏を含むも、その表情は柔らかく、極めて甘美な響きを持つ輪郭です。合唱は聖なる都エルサレムへと魂を誘います。ハープも加わり、そこでも天使たちの歌声が永久（とこしえ）の安らぎを祈るのです。

ジャック・イベール（1890－1962）

室内管弦楽の為の嬉遊曲

1928年に作製された「イタリア麦の帽子」というモノクロの無声映画のムードを盛り上げるために、イベールが作曲した音楽をもとにし、彼が６曲から成る「組曲」ともいえるこの曲集を作りました。
この映画は当時大うけに受けたフランスの喜劇です。それは結婚式当日のお話。美しい新婦の待つ家に一人馬車で陽気に向かっている新郎の鞭が道端の木に引っ掛かり、それを拾っている間に近くの枝にかかっていた帽子を馬がムシャムシャかじってしまいます。その帽子の持ち主は既婚の女性で、軍のお偉い方とあいびきの真っ最中。彼女は「帽子がないと夫のもとに帰れない」と放心状態で、その軍人は「これと同じものを探してこい！」と新郎につめ寄ります。可哀そうな彼は、何とか代わりの帽子を探そうとするのですが……。ドタバタと進行していく愉快な映画です。
そのような無声映画に、日本では活弁（じょうぜつ）に話を語り上げ、登場人物の代弁をする活動弁士が大いに活躍しました。西洋では館内に音楽を流したり、オーケストラの生演奏で音響的に物語をサポートさせました。この様な音楽作品を「付随音楽（Incidental Music）」と言います。本日のイベールの遊戯曲も、無声映画「イタリア麦の帽子」の「付随音楽」から抜き取られて、６つの小品から成る組曲となったものです。無声映画に付随する音楽ですが、本日はその逆、すなわち音楽に付随した場面を、ご自由に目の前に描きながらお楽しみください。

第１楽章　Introduction　アントロデュクスィオン：導入
場面の説明的楽曲というより、喜歌劇の序曲のような役割を持って作曲されています。Allegro vivoの示すように陽気に生き生きと演奏され、愉快に素早く動くメロディと、滑稽（こっけい）なリズムが変拍子に乗って進んでいく様は、この物語の核心を如実に表現しています。

第２楽章　Cortège　コルテジュ：行進
冒頭はなにやら神妙な空気が流れ、ヴァイオリン独奏のハーモニクス奏法の響きもミステリアスな雰囲気を醸し出します。すぐさま三々五々おいわいがやがやと式場に集まって来る御一行のような、陽気な音楽が乱入します。スネア・ドラムの導入で新婦の入場です。もちろんここで登場する旋律は皆さんご存知のあの曲から拝借されたものです。花嫁をエスコートする父親や、娘を嫁に出す母親など、画面に映った人物の心を模写するような楽音が印象的です。

第３楽章　Nocturne　ノクテュルヌ：夜想曲
音楽は一転、まるで十二音技法を思わせる、しんとした夜の帳（とばり）を表現する緊張感をはらみ、この組曲のムードを引き締めます。調性が感じられないゆえに、落ち着きを失った感覚さえ憶えます。

第４楽章　Valse　ヴァルス：円舞曲
豪華絢爛に始められます。ここでもあの「ワルツ王」の作品に似たものも出てきます。披露宴参加者の十人十色の円舞を表現しているようにも思えます。

第５楽章　Parade　パラード：行進
行進曲のテンポの木金管の歯切れ良い旋律と、曲を通して刻まれる２拍子が軍隊風の行進を想像させます。遠くからやって来て華やかに飾った行列を見せて、そして去ってゆく行進を見送るような楽曲です。

第６楽章　Finale　フィナル：終曲
ピアノの過激ともいえる、即興風に弾かれる密集和音の連続体で導入されます。元気よく駆け抜けるギャロップのテンポで踊り乱れて、このコメディを華やかに終えます。

無伴奏合唱による

クリスマスキャロル

The First Nowell　牧人ひつじを
この曲はイギリスで古くから親しまれてきたキャロルで、歌詞の起源は15世紀まで遡れるようです。今日讃美歌などで歌われている旋律と歌詞は、1833年出版の本「クリスマスキャロル・昔と今」で採り上げられました。
Nowell（Nowel、Noel、Noëlなど）とはクリスマスを迎える祝いの叫びで、そこからクリスマス祝歌の意味も持ちます。このキャロルはキリストの生誕、羊飼いたちが見た星、それに導かれやって来た東方の三博士、と続き、最後に神様に捧げる感謝で締めくくられます。
合唱編曲はノルウェー出身のオラ・イェイロ（1987－）で、グレゴリオ聖歌調の旋律を持つ宗教曲の作曲を得意とし、心をうつ美しい作品が世界で歌われているようです。ここでもゆったりとした流れの中で、緩のハーモニーの美しさが優しく表現されています。

Psallite（Singt und klingt）　うたえ そして奏でよ
この曲はドイツの作曲家ミヒャエル・プレトリウス（1570頃－1621）が1609年に出版した楽譜集に載っています。ところが実はこれは、16世紀半ばにドイツで出回っていた出版物に載っていたフランス語の世俗曲の替え歌なのです。
当時のドイツでは器楽アンサンブルの楽譜と声楽アンサンブルの双方のスタイルが楽しまれていました。声楽の曲の歌詞はラテン語とドイツ語の混合で、マカロニックと呼ばれるものです。「神のひとり子に賛美を歌おう！」と楽しく歌われます。

Angels We Have Heard on High　荒野の果てに
原曲はLes anges dans nos campages（天使たちが私たちの平原の上で歌いました）という、18世紀に歌われ始めたとも言われているフランス語のクリスマスキャロルです。英語版 Angels we have heard on high（私たちが高みに聞く天使たち）の言葉は、原曲の歌詞に沿うように訳されました。1860年にロンドンで出版された楽譜集「聖なる家の讃美歌」の１曲として収められています。
合唱アレンジはルーマニア生まれのアメリカで活躍中のガブリエル・ドゥミトリスク（1985－）です。田園風に始められた曲は、番が変わるごとに、楽しく、ゆったりと雰囲気が変えられ、最終的には８声で優しく揺れる子守歌のように歌われ、荘厳に終えられます。

ゲオルグ・フリードリヒ・ヘンデル（1685－1759）

メサイア　HWV56　より

日本ではヘンデルのメサイアと言えば、オラトリオの代名詞のように思われます。規模の大きなコーラス、美しい調べで物語を進めていくレチタティーヴォ、表情豊かに流れるアリアなどで構成されるメサイアは、一般的にオラトリオの代表として考えられるからでしょう。この50曲以上から成る大作を、ヘンデルはまるで何かに悪りつかれたように24日で書き上げたのです。
歌詞は聖書から引用され、メサイア（救世主）としてのイエス・キリストの生涯が教会歴に沿って組み立てられています。全体は３部に分かれ、第１部は誕生の予言と降誕、第２部は受難と贖罪、そして復活、第３部は永遠の命がテーマになっています。本日は第１部から２曲、第２部から１曲選び演奏します。

And the glory of the Lord　主の栄光がこのようにして　イザヤ書40：5
メサイアで最初に歌われる合唱です。快活な舞踏のような３拍子に乗って、４つの性格を持つ動機が創られ、それらがある時は単独で、ある時は他の動機と多声的にからみつつ、そしてある時は一緒に響き合うように構築されています。その生き生きとした音響的模写によって、この合唱はまるで広大なフレスコ画の様にさえ感じられます。

For unto us a child is born　ひとりのみどりごがわたしたちのために生まれた　イザヤ書9：6
バロック時代の音楽形式の濫れた曲です。その一つとしてコンチェルト・グロッソ（合奏協奏曲）の形式を持っています。これはリピエーノという母体のアンサンブル集団に対して、コンチェルティーノというソロ集団が存在し、明確な音量のシフトを打ち出す形式です。合唱では、旋律的にメリズマという、テキストの１つの音節に複数の音符を規則的にあてがうスタイルが使われています。旋律美よりもリズム動機を優先し、上昇のメリズマで高揚感を盛り上げ、そこにコンチェルト・グロッソの形式が当てはめられて、救世主の降誕を喜ぶ大きな効果を生み出しています。

Hallelujah　ハレルヤ　ヨハネの黙示録 19：6, 11：5, 19：16
「私は目前に全ての天と大いなる偉大な神を見たと思った。」ヘンデルはこの楽章を書き終わった時にこう言い、彼の両目からは涙がとめどなく流れ出たそうです。この曲はホモフォニーが言葉の持つリズムと共に、音楽的に力強く訴える事のできる可能性を提示したものと言えるでしょう。そしてそれゆえ、数か所に見られるポリフォニーが引き立てられ、感動的な曲となっているのです。ベートーヴェンの「歓喜の歌」と共に、世界の人々に愛されている作品と言えましょう。

Message

阪神淡路大震災から25年の今年、私は兵庫芸術文化センター管弦楽団との公演をフォーレのレクイエムで幕開けしました。そして予想もしなかったコロナ禍で、多くの演奏会がキャンセルに追い込まれました。オーケストラや合唱団の演奏をお客様に聴いていただこうという活動は、コロナとの闘いに全く逆行しているようで、音楽家は無力を感じてきました。
けれど「コロナに負けない！」という時、当然感染を防ぐことが第一なのですが、私たちがお互いの絆や信頼を失わない！ということも大切です。この一年誰もが苦心して生活し、握手もハイタッチもハグも出来なくなった今だからこそ、音楽によって人々の絆という宝物を取り戻せたらと心から願っています。
復興の過程で神戸市のオーケストラ、合唱団が市民に心のビタミンをたくさん届けてくださり、神戸は心豊かな街として見事に復興を遂げました。この演奏会では阪神淡路大震災で亡くなられた方々の御霊に手を合わせ、私たちが音を心から楽しみつつ、神戸の街に心豊かな未来が続いていくことを共に祈りたいと思います。心の握手、心のハイタッチ、心のハグを感じていただけたらと思います！

指揮者　佐渡　裕